

ものづくりから考えるまちづくり ～フォリーによる未利用空間の仮設公園化～

はじめに

私たちは、ものづくりによるまちづくりを提案します。現在、福岡市東区の香椎・千早地区は福岡市の副都心化へ向けて区画整理事業が行われています。現在のこの地区には、行政による先行取得地をはじめとした未利用空間（空き地・高架下など）が数多く存在しています。この未利用空間は何らかの用途で利用されるまでは人の目が行き届かず犯罪等が生じやすい環境、いわゆる都市の死角となっている問題があります。こうした都市の死角の問題の解決方法として、私たちは香椎の未利用空間にフォリーを設計・製作、設置しここを仮設公園化するものづくりから考えるまちづくりを提案します。

香椎に見られる未利用空間の事例



空き地

高架下

フォリー設置による効果

フォリーとは、通常の建築とは違って居住や雨風をしのぐ等の特定の用途がないもののことです。普段、未利用空間は、人が集まらずに人の目が行き届かない状況をつくり出し、都市の死角となることで犯罪等が起こりやすい空間になってしまいます。そこで未利用空間にフォリーを設置し仮設公園化することで、ここが周囲の目に留まり関心を持つ人が増えることで、人が集まらない空間から人が集まる空間へ変化します。その結果、都市の死角となることを防ぐとともに、都市の死角で起こりうる犯罪等を未然に防ぐことが可能です。また地域の方々に仮設公園を利用してもらうことでその場所のよさや利用価値を感じてもらえ、土地利用の促進を期待できます。



フォリー（サンプル）

フォリーの設計上の留意点

- ・安全面への配慮が必要である
- ・どんな敷地にも対応できる
- ・幅広い年齢層の方が利用できる
- ・可変性がある
- ・様々な用途で利用することができる

地域の方々との連携として



仮設公園

利用してもらう

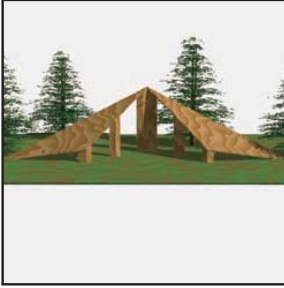
いち！

フォリー製作までの過程

- 4月某日 土地区画整理事業に伴って発生する未利用空間への問題意識
取り組みの始まり。
- 5月21日 東区コミュニティユース 2010 活動申請プレゼン会に参加
実際にフォリーを香椎の未利用空間に設置するための費用取得のため、東区コミュニティユース 2010
(福岡市東区役所) 助成申請プレゼン会に参加。→ 採択され、助成金(118,000円)を獲得。
- 7月25日 九州産業大学オープンキャンパスにて提案の一部(ブロック)、説明パネルの展示
実寸でブロック、ユニットを作成。→ 問題点、改善点を発見した。スケール感をつかめたことで
実際に設置する際の設置イメージをより具体的に考えていくことにつながった。
- 9月2日 香椎振興整備事務所において先行取得地借用の許可願
フォリー設置を予定している先行取得地(福岡市東区香椎駅前2丁目、ダイソー跡地)の管理
を行っている香椎振興整備事務所へ「香椎まちなか美術館」期間中の使用許可を得るために
交渉に出向く。→ 予定地での使用許可を得た。
- 9月16日 福岡市東区役所においてフォリーの安全対策についての説明
フォリーの安全対策について、設置期間中に考えられるトラブル等に対する防止策の提示。
→ 安全対策の承認を得た。
- 10月1日 香椎商工連盟の「香椎まちなか美術館」の事前協議会への参加
「香椎まちなか美術館」を運営する香椎商工連盟に、香椎振興整備事務所における交渉、東
区役所における説明により許可・承認を得た内容について最終確認
- 10月14日～20日 「香椎まちなか美術館」においてフォリーの設置および仮設公園化の社会実験

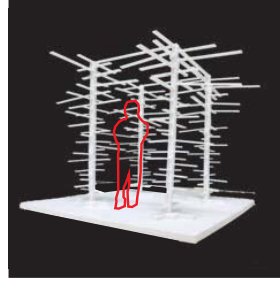


構想



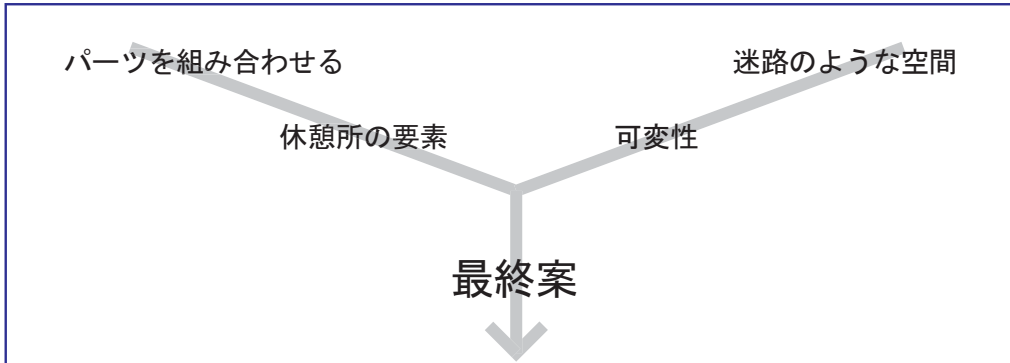
第1次案

第1次案は遊ぶこともでき休憩もできる遊具と休憩所を融合したイメージのものを考え、2つの三角形のパーツで様々な組み合わせができるものにしました。



第2次案

第2次案は可変性に重点を置いて柱と柱を線でつなぐイメージで作成し、これを繋げることで迷路のような空間が楽しめるように考えました。



第1次案、第2次案を踏まえ、最終案を上の写真のようにしました。まず可変性については大きな1つのフォリーでの対応は難しいため、レゴブロックのような小さなパーツを組み合わせることにより1つのフォリーが完成する方法を考え、写真のような四角形のフレームをつなぎ合わせることで組み換える形にし、どのような敷地にも対応できる可変性を持たせることで解決を目指しました。

次に人を引き付けるしかけとして迷路のような通路を基本的な構成として、そこに休憩所(スペース)を設けることで地域住民の交流の場となるようにしました。また、展示スペース(絵などの平面や立体スクリーン)としての利用等、人によって様々な使い方が考えられるものをイメージしました。

さん!!!

部材の加工 写真に示す手順で加工しました。



1. ダボの穴を開ける



2. ヤスリをかける



3. ダボを長部材の穴に打ち込む



4. 短部材を打ち込む



5. ブロックの完成！！

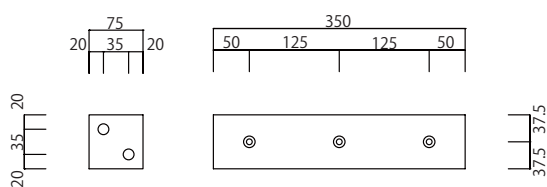


6. ユニットの仮置き

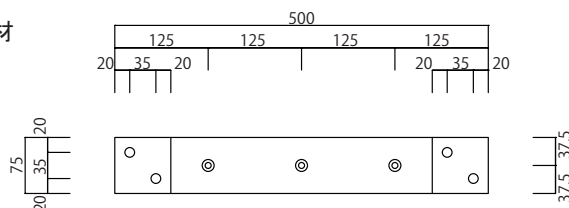
500mm × 500mm のブロックを 30 組、400mm × 400mm のブロックを 70 組、合計 100 組のブロックを製作し、3 組のブロックをつなげて 1 ユニットとしました。これを基本に増殖するように組み合わせて配置しました。

ブロックの組み立て

・短部材



・長部材



ダボを用意する



ダボを長部材の穴に打ち込む



短部材を打ち込む



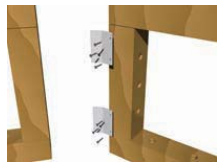
完成



よん !!!!

設置イメージ

・ユニットの製作方法



金物とビスを用意する



まず1つに金物をビスで固定



次に2つ目をビスで固定



2つをつないだ物ができる



3つ目も同様に接合し完成

このユニットを連結させていくことでより安定感を持たせるようになっている。

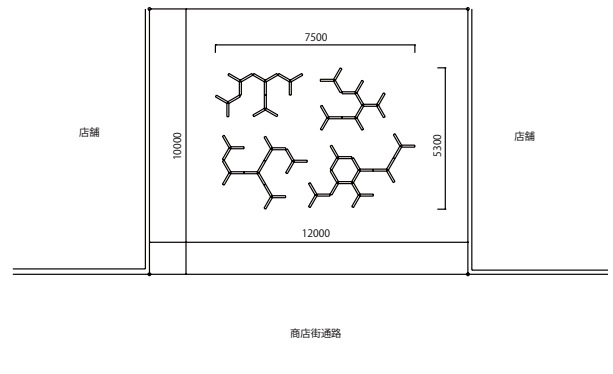
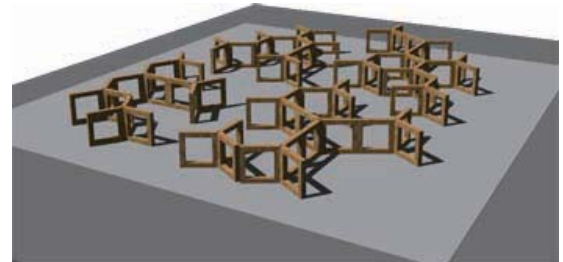
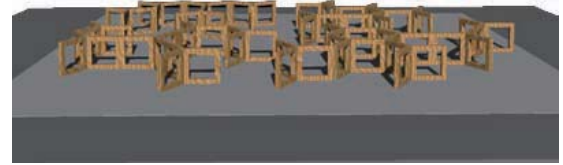
・ユニットどうしの接合方法



ボルトを用意する



ボルトを穴に差し込んで固定する



設置概要図

設置作業



10月14日から10月20日に香椎で行われている「香椎まちなか美術館」での期間中、実際に地域の方々から未利用空間を借用し、フォリーを設置し仮設公園化を行いました。設置当日は多くの地域の方々が足を止め、見守られながらの作業となりました。また地域の方々と学生との間での交流も生まれ、交流の場としての仮設公園の目的に一步近づいた手ごたえを得ることができました。設置の際はフォリー設計上の留意点としてもあげていた可変性を活かし、借用した未利用空間が持つ特性や場の雰囲気に合わせて実際にブロックを動かしながら確認を行うことができました。その結果、設置が終わったときには予定していた計画とは少し違った設置になりましたが、地域住民の方々の意見も取り入れながら一緒にものづくりを行う貴重な体験になりました。

ごっ!!!!

地域の方々による利用

仮設公園を地域の方々に利用していただき、次の様々な意見が寄せられました（発言のまま）。

- ・座るところがベンチくらい広かったらもっとよかったね。板を取り付けてみるとかさ。
- ・子どもから大人まで楽しめるね。幼児サイズのブロックなんかがあってもおもしろそうだね。
- ・ジャングルジムみたいに遊べるぐらいの強度があつたらよかったね。
- ・形を見ただけで安定してるのがわかるから安心だね。
- ・迷路みたいでおもしろいね。形の組み合わせ方がユニーク。
- ・大学生が地域のために何かやってくれと地域の人嬉しいよ。
- ・私の家の近くの空き地でもこんなイベントやってほしいね。
- ・最近は大工さんを見かけることが少なくなってきたから、木をつかってものづくりをしている様子を見るとなんだか嬉しいね。やっぱりものづくりって大切だよ。



おわりに

設置段階から地域の方々が関心を持ってもらうことができ、多くのアドバイスも多くいただきました。私たちが予想していた以上に多くの方が集まって利用していただきました。また、フォリーの設置効果として挙げていた人が多く集まる空間をつくり出すことができ、今回のテーマでもあった「ものづくりによるまちづくり」がささやかながら実現できたと思います。今後はこれをきっかけにその場所のよさ、利用価値を知ってもらい土地利用の促進につながっていければよいと思います。